ご近所のお医者さん

765

南大阪病院長 竹村雅至さん ―大阪市住之江区

食道裂孔ヘルニア

夜間の嘔吐にご注意を



高齢者の人口増加とともに、高齢者に特に発症しやすい病気が増加してきています。そのうちの一つに「食道裂孔ヘルニア」があります。食道裂孔という横隔膜の穴を通り、腹部にある胃やほかの臓器が胸の方向へ入り込むことで臓器の位置が変わってしまい、さまざまな症状が生じるという特殊な病気です。

内視鏡検査を受けられた方の約半数に見つかるほど頻度が高く、隠れた国民病と言えます。女性では高齢になるほど頻度が高くなることが報告されています。

症状の中でも多いのが逆流性食道炎です。そのほかに、胸部不快感・胸痛や嘔吐（おうと）がありますが、このうち高齢者で最も問題になるのは嘔吐です。食道裂孔ヘルニアに伴う嘔吐は食後に多く、前かがみになった時や夜間就寝時などにも生じることが特徴です。加齢による飲み込む力や嚥下（えんげ）機能の低下で、食べ物が気管に入りやすい状況に加え、食道裂孔ヘルニアという逆流しやすい状態が重なると、嘔吐物が気管に入り重篤な「誤嚥（ごえん）性肺炎」を引き起こす可能性が高くなります。

細菌感染・ウイルス感染などで生じる肺炎もありますが、高齢者は特に誤嚥性肺炎のリスクが高い上に、繰り返す傾向にあります。また、誤嚥性肺炎により入退院を重ねることで呼吸に関する筋力が低下し、さらに肺炎を起こしやすくなるという悪循環に陥ることもあります。

治療では、逆流してくる胃の内容物の刺激性を抑える薬や、胃から腸への排出を助ける薬を使うことが多く、さまざまな症状が改善する方も多くみられます。しかし、逆流を防ぐ体の仕組みがうまく働かなくなっているため、逆流そのものを薬で改善できないということが問題です。当院でこの働きを回復させる外科的治療を行っています。

高齢者で嘔吐を繰り返す方は誤嚥性肺炎のリスクが高くなることと、嘔吐を生じる可能性のあるほかの病気（食道がんや胃がんなど）の診断のため、ぜひ消化器内科での内視鏡検査をお勧めします。